

オオシラビソ林再生の取組を進める蔵王の国有林に 東北林業試験研究機関連絡協議会をご案内しました

令和5年8月10日(木)、東北林業試験研究機関連絡協議会の皆さまを、オオシラビソ林再生の取組を進めている蔵王地蔵山頂付近の国有林にご案内しました。

東北各県に所在する林業試験研究機関から組織される東北林業試験研究機関連絡協議会は、毎年総会等を開催されています。今年度の当番である山形県森林研究研修センターから、オオシラビソ林の集団枯損と保全対策をテーマとする現地検討会を開催するとのお話をいただき、現地をご案内したものです。

当日は、11名の方が参加され、ロープウェイの車中や山頂駅付近から、オオシラビソ林の枯損の状況をご覧になりました。当署からは、オオシラビソ林の再生については、

- ・ 地域管理経営計画書(最上村山森林計画区)に「森林総合研究所東北支所や山形県森林研究研修センター等の専門機関及び地元公共団体等の関係者と連携・協力のもと、アオモリドマツ林の再生に向けた取組を行う」と記載して、稚樹の移植や採種、播種などに取り組んできていること
- ・ 当地では、樹氷の再生に向けて試験研究機関の参画に強い期待が寄せられていること
- ・ 森林管理局による調査により、空撮画像から枯死木・生立木の本数を把握したこと

などをご説明しました。山形県森林研究研修センターからは、本年3月に設立された「樹氷復活県民会議」についてのご説明などがありました。

青空が広がる好天でしたが風も強く、厳冬期のさらなる強風の一端を体感していただくこともできたほか、自生稚樹の移植箇所では、稚樹の根系の様子やササとの関係についてなど多くのご質問やアドバイスをいただくことができました。引き続き、山形県森林研究研修センターはじめ地域の試験研究機関のご協力をいただきながら、オオシラビソ林の再生に取り組んでまいります。

